

生誕100年 ドナルド・キーン展 軽井沢と日本語の美

日本の古典から現代文学まで通じ、世界に日本の文化と文学を広めた日本文学研究者、ドナルド・キーン(1922～2019)は1922年、米ニューヨーク州に生まれました。コロンビア大在学中の18歳の時、ニューヨークの書店でアーサー・ウエーリ訳『源氏物語』2冊本に出会います。ドナルド・キーンの日本文学への遙かな旅路はここから始まりました。日米開戦に伴い1942年、米海軍日本語学校に入学。情報将校としてハワイや沖縄に従軍し、日本兵の日記読解や捕虜の通訳をしました。

戦後、ハーバード大、ケンブリッジ大で日本文学の研究を続け、1953年から2年間、念願の日米留学(京都大)を果たします。京都での下宿先では終生の友・永井道雄に出会いました。この時期、書や狂言を習い、永井の友人の中央公論社社長・嶋中鵬二を通じて三島由紀夫を知り、また谷崎潤一郎や川端康成らの知遇を得ました。英訳『日本文学選集』を編集し、米国の出版社から刊行、日本文学の海外紹介のきっかけを作りました。

1960年、コロンビア大教授に就任。日米を往復しながら、近松や芭蕉など古典文学を研究。「おくのほそ道」などの古典から太宰治、安部公房、三島まで、多くの作品を英訳、海外に紹介しました。古事記に始まり現代までを見渡す『日本文学の歴史』全18巻や日記文学論『百代の過客』等を執筆。晩年の20年余は明治天皇、正岡子規ら転換期の評伝に力を注ぎ、日本人の精神を浮かび上がらせました。

1971年から1年の前半をニューヨーク、後半を東京下町の見晴らしのよい簡素なマンションで過ごし、夏は軽井沢で執筆に打ち込みました。2011年の東日本大震災後、日本への永住を決め、日本国籍を取得、日本名キーン・ドナルドには「鬼怒鳴門」の字をあてました。

ドナルド・キーンと軽井沢の関わりは、1950年代、永井道雄の招きで軽井沢を訪れたことがきっかけでした。清涼な気候を気に入り、1965年に十坪ほどの山荘を建てました。兼好や芭蕉など中世の文人に自身を重ねながら、山麓の深い緑と静寂の中で、半世紀以上にわたり『徒然草』や三島『サド侯爵夫人』の英訳、『石川啄木』などの執筆を行いました。自ら料理を作り、クラシックやオペラなど音楽を楽しみ、周辺の散策をして花や木を愛でました。「季節の移り変わりや自然の美への表現の豊かさが日本語の本質」と語るドナルド・キーンにとって、自然豊かな軽井沢の環境は「日本語の美」とは何かに思い巡らす最適の場だったと言えるかもしれません。

本展は、ドナルド・キーンが生誕100年を機に、夏の仕事場のあったゆかりの地において、主要作品や軽井沢との関わりなどを中心に、ドナルド・キーンの人と仕事を紹介しようとするものです。自筆原稿や書簡、蔵書、愛用品など関係資料約200点を展覧いたします。



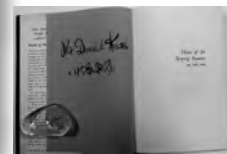
愛用のタイプライター 軽井沢山荘において『徒然草』英訳をはじめ多くの仕事を行った。東京都北区立中央図書館蔵



ドナルド・キーン英訳『徒然草』
『Essays in Idleness: The Tsurezuregusa of Kenko』Columbia University Press
1967年 D.キーンは「私の翻訳の中でも最高作と自賛できる英訳」と述べている。



川端康成からドナルド・キーンに贈呈された川端康成『眠れる美女』英語版(エドワードD.サイデンステッカー訳)『House of The Sleeping Beauties and Other Stories』Kodansha International 1969年



自作の俳句「白たまの 消ゆる方に 芳夢蘭 大正七十二年八月十五日 どなるどきん」。永井道雄の軽井沢山荘で甲子園野球TV番組を見ていた際、戯れにメモ用紙に赤ペンで記した句。「芳夢蘭」はホームランの当て字。大正七十二年(註:1983年)とあるのもユーモアが感じられる。



「軽井沢の魅力」原稿(冒頭)
1985年8月。後に『二つの母国に生きて』(1987年、朝日新聞社)に収録。「別荘とその周囲に相当の愛着を感じている」と記す。軽井沢は「日本で初めて住民票を持った記念すべき、愛すべきところ」という(キーン誠己「素顔の父ドナルド・キーン……ともに暮らして」/『新潟日報』2015年8月27日)

京都・竜安寺石庭の前に



軽井沢で永井道雄と1960年頃

【関連イベント】

高原文庫の会

「ドナルド・キーンさんの思い出」

お話し: 浅田次郎(作家)
日時: 9月10日(土)午後2時～ 会場: 軽井沢高原文庫中庭
料金: 2000円 定員: 80名
(※高原文庫の会参加者へ夏季特別展に合わせて刊行した「高原文庫」第37号を1冊贈呈)

高原の文学サロン

「トーク&演奏♪——ドナルド・キーンを語る」

講師: 角地幸男(翻訳家、文芸評論家)、キーン誠己(ドナルド・キーン子息)
日時: 8月27日(土)午後2時～ 会場: 軽井沢高原文庫中庭
料金: 1500円/学生・友の会会員1000円
定員: 50名

※各イベントは要予約。友の会会員を除き、別途入館券が必要です。
Eメール(kogenbunko@yahoo.co.jp) FAX(0267-45-6626)でお申し込みください。

文学散歩

「ドナルド・キーン山荘を訪ねる」

日時: 9月24日(土)午後1時～
ドナルド・キーンが1965年から半世紀余を過ごした軽井沢山荘を訪ねます。内部見学あり。
集合: 中軽井沢駅(※送迎あり) 料金: 2000円/友の会会員1500円
定員: 13名 ※予約受付8/1午前9時～

次回企画展

「文学のふるさと・軽井沢—朝太郎、犀星、龍之介、辰雄……」

日時: 10月14日(金)～11月30日(水) 会期中無休
萩原朝太郎没後80年にあたり開催される共同企画「朝太郎大全2022」に当館も参加します。

「女流博物画家 メーリアンの世界」

日時: 7月1日(金)～8月28日(日)
会場: 堀辰雄山荘

軽井沢高原文庫 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉 202-3
Tel. 0267-45-1175 Fax. 0267-45-6626 http://kogenbunko.jp

交通: JR北陸新幹線・しなの鉄道「軽井沢駅」下車、タクシー約10分、または、しなの鉄道「中軽井沢駅」下車、タクシー約7分。
上信越自動車道・碓氷軽井沢 I.C.より車で約15分。

※会期中、次のバスが運行いたしますのでご利用ください

〈急行塩沢湖線〉通年「軽井沢駅北口バスターミナル④番」→「塩沢湖」下車(有料410円)
〈町内循環バス(東・南廻り線)〉通年「軽井沢駅北口バスターミナル①番」→「塩沢湖」下車(有料100円)

※展覧会およびイベントのスケジュールは、コロナウイルス感染防止のため、変更または中止される場合がございます。

